

20131028

2013年10月28日 日本テレビ 定例記者会見

《要旨》

1. 視聴率動向と編成戦略

・視聴率データ

先週の週間視聴率は、全日 7.9%、プライムタイム 11.7%、ゴールデンタイム 11.9%。年間平均視聴率では 2012 年 12 月 31 日からの 43 週で、全日 1 位、プライムタイム 2 位、ゴールデンタイム同率 1 位とライバル局との非常に厳しいトップ争いが続いているが、引き続き良質な番組作りを心がけていく。

・10月改編

10 月期の改編は、狙い通りの展開になっている。

バラエティーに関しては、改編した 2 番組、月曜 19 時「有吉ゼミ」と木曜 19 時「あのニュースで得する人損する人」が期待通り、むしろそれ以上の成果を出している。バラエティ一番組は改編当初から苦戦する傾向にあるが、この 2 番組は初回を 2 時間スペシャルで放送し、「有吉～」は 12.1%。「あのニュース～」は 10.5%。さらに 1 時間のレギュラー放送でも、「有吉～」は 10.4%、「あのニュース～」は 11.6%と二桁を獲得、満足のいく結果を出した。この 2 番組は 9 月に放送した 2 時間スペシャルでも二桁だったので、これまでのすべての放送回で二桁をとったことになる。ゴールデンのタイムテーブルにとって非常に良い傾向である。

「NEWS ZERO」についても、月曜日から木曜日までの放送開始時間を 23 時の正時にし、非常に良い結果が出ている。先週の週平均視聴率 8.8%は、今年の週平均の中でトップである。

2 つのドラマは、視聴率的に厳しい戦いとなっているが、番組内容は非常に良いものだと思っている。さらに PR 展開を工夫し、より多くの方に見ていただくための努力をしていく。

今後も引き続き、タイムテーブル上での視聴の流れを意識しながら、レギュラー番組と特番のバランスを考えた番組編成を行っていく。

2. 営業状況

・放送収入

タイムセールスの上半期の売上は、昨年のロンドン五輪の単発セールスの反動減が大きく影響し、前年比 100%に届いていない。スポットセールスは、微増ではあるが前年比を上回る結果を残すことができ、その結果、タイム、スポットの合計では前年を上回っている。

まだ各局のスポット売上の数字が出揃っていない状況だが、2013 年度上半期のシェアがキー局の中でトップになったのではないかと聞いている。上半期のシェアがトップになつたとすれば、12 年ぶりのことになる。詳しい数字は、今後の第二四半期決算で公表されるが、番組の質が良くなつたこと、タイムテーブル全体の改善がスポンサーにも評価された結果だと受け止めている。

テレビ業界全体がスポンサーに支持されることが第一であり、全体の底上げを期待しているが、スポンサーに最も支持されるテレビ局でありたいという目標に向けて、一歩前進した上半期だったと総括している。

・放送外収入

映画は、スタジオジブリ作品「風立ちぬ」が 10 月 27 日（日）までで、約 947 万人の方にご覧いただき、興行収入では 117 億円台という状況。前週比で見ても、まだ観客動員数が落ちているわけではないので、もう少し伸びることを期待している。

「謝罪の王様」は、30 日間の興行で 147 万人以上の方にご覧いただき、ヒットしている。

「潔く柔く」が 10 月 26 日（土）に公開された。女性に非常に人気のある作品になっており、これからさらなる伸びを期待している。

そして、いよいよ「かぐや姫」が 11 月 23 日（土）に公開される。今年 2 本目のスタジオジブリ作品であり、高畑勲さんの監督作品。

イベントは、「京都一洛中洛外図と障壁画の美」が上野の東京国立博物館で 10 月 8 日から 12 月 1 日まで開催されており、これまでに 6 万人を超える方にご来場いただいた。国宝や重要文化財などが展示され、さらには横が約 16m、縦が約 3.4m の 4K、超高精細映像で京都・龍安寺の石庭の四季が鮮やかに再現されていて、非常に高い評価を得ている。

海外ビジネスには力を入れて取り組んでいるところであるが、10 月 8 日、フランス・カンヌで開かれている世界最大級の国際コンテンツ見本市「MIPCOM」において、優れた日本のドラマに贈られる「MIPCOM BUYERS' AWARD for Japanese Drama」のグランプリを「Woman」が受賞した。

また、23年目を迎える人気番組「はじめてのおつかい」の中国版が現地で制作され、中国の全域をカバーしている衛星放送で10月13日から放送されている。

海外ビジネスは日本のテレビ局の収益の一つの柱となっていくと思うが、まだスタートしたばかりであり、時間がかかる。しかし、今まで撒いた種が1~2年後には、少しづつ花開き、ゆくゆくは実を結んでくれるのではないかと思う。

今、総務省、経産省などが様々な支援を行っており、それが一つのきっかけとなって、日本のコンテンツの海外流通が促進することを期待している。このような国の取り組みにも積極的に参加し、出来ることを精一杯やっていく。

当社は他社と比較すると、全体の売上に占める放送外収入の比率がそれほど高くない。将来的には、もう少し放送外収入の比率を高めたいと考えており、事業局などが様々な形で新規分野にチャレンジしていくことを期待している。

3. その他

・「秘密のケンミン SHOW」

「秘密のケンミン SHOW」は読売テレビが制作している。読売テレビは、様々な要素を総合的に判断して、みのもんたさんの出演を継続することにしたのだと思っている。日本テレビは、読売テレビの総合的な判断で出した結論を尊重して、受け入れ、番組を放送している。

・4K、8K（超高精細映像）

4K、8Kなどの超高精細映像については、今、総務省の「次世代放送推進フォーラム」を中心となって、技術仕様の検討などを始め、これから試験放送を行うという段階。これからどのような問題が出てくるのか、どのような形で実用化まで進めていくのか、まだ見えていない。4K、8Kの放送については、民間放送局として出来る範囲で準備を進め、受信機の普及、伝送路の整備、視聴者ニーズなどから総合的に判断して、地上波、BS、CSを合わせて、どのような形で実施できるのかを検討していく。

(了)